



国立競技場とりこわし工事が 始まりました ①

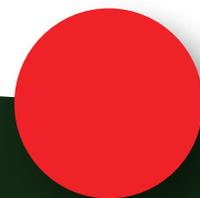
移転した秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の今

IBSAブラインドサッカー世界選手権2014 ②

第11回JISSスポーツ科学会議 スポーツ科学、次へのステップ～ソチとこれからのサポート～

第12回主要スタジアム情報交換会 ③

スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート (第3回)



国立競技場 とりこわし工事が 始まりました

国立競技場とりこわし工事の前段として聖火台・壁画等の記念作品の移設工事を行っていましたが、競技場本体のとりこわし工事が始まりました。

半世紀以上にわたり、日本のスポーツ界を見守った国立競技場も2014年5月末でその歴史に一旦幕を下ろしました。2019年3月には生まれ変わった新しい姿の競技場をお披露目できる予定となっております。それまで、しばらくの間は姿を消すこととなりますが、新国立競技場の完成を楽しみにお待ちいただければと思います。完成した新国立競技場が、世界で「いちばん」のスタジアムであると皆様に愛されるよう、今後も諸準備に邁進してまいりたいと考えておりますので、引き続き、あたたかく見守っていただければ幸いです。

工事期間中は関係者・近隣の方々にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒よろしくお願いたします。



とりこわし工事（競技場内・2月2日撮影）

今後の予定

とりこわし工事：
～2015年9月
建設工事：
2015年10月～2019年3月

移転した秩父宮記念スポーツ博物館・図書館の今

1 秩父宮記念スポーツ博物館

秩父宮記念スポーツ博物館は、2014年5月から新国立競技場が完成するまでの間、休館となっておりますが、その間も他の博物館等への資料の貸出しを行っております。2014年度は2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催へ向け、各地の博物館でオリンピックをテーマとした展示会が多数行われました。当館も、江戸東京博物館、島根県立石見美術館、長崎歴史博物館等、計17施設（2014年1月現在）へ1964年東京オリンピックを中心とした資料を貸出しました。スポーツ分野への興味・関心は今後も高まっていくと予想され、当館としても、全国の博物館との連携を通じ、スポーツの情報発信を積極的に行い、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に対する関心・機運の醸成に貢献したいと考えています。

秩父宮記念スポーツ図書館
閲覧室

2 秩父宮記念スポーツ図書館

秩父宮記念スポーツ図書館は、資料の閲覧サービスを行っております（予約制）。閲覧を希望される方は、閲覧希望日の2日前までにFAXまたは電話で、閲覧を希望する資料名、来館日と時間をお知らせください（閲覧室のみの利用はできません）。折り返し担当者から連絡いたします。閲覧室の利用方法等につきましては、当館ウェブサイト（<http://www.jpnsport.go.jp/muse/>）をご覧ください。



国立代々木競技場にて日本初開催

IBSA ブラインドサッカー世界選手権 2014

2014年11月16日（日）から11月24日（月・祝）にかけて、4年に一度開催されるブラインドサッカー最高峰の戦い、「IBSAブラインドサッカー世界選手権2014」が国立代々木競技場フットサルコートで開催されました。ブラインドサッカーとは、視覚障がい者と健常者が同じフィールドでプレーする「ユニバーサルスポーツ」で、特殊な鈴が入っている「ボールの音」と「まわりの声」を頼りにゴールを奪い合うスポーツです。音声情報が大切なスポーツのため、ヘリコプターやジェット機などが通れば、審判がプレーを中断することもあります。

日本初開催となった今大会は、各大陸予選を勝ち抜いた強豪国と特別枠（ホスト国、アフリカ）の12カ国が参加し、国内外から多くの観戦者やメディアが来場しました。

開幕戦の日本vsパラグアイの試合のチケットは完売し、キックオフ前から大勢の日本サポーターが集まり、観客席

はジャパンプルーで埋め尽くされました。たくさんのサポーターの声援もあり、1-0で日本が勝利し、幸先のよいスタートを切りました。その後も日本代表は、毎試合サポーターの大声援を受け善戦を重ねた結果、過去最高の6位という成績を収めました。この結果は、2016年リオデジャネイロ・パラリンピック出場に向けて、大きな弾みをつけることとなりました。

決勝はブラジルvsアルゼンチンの南米対決となり、白熱した試合は前後半では決着がつかず延長戦に突入し、ブラジルが延長後半1分に挙げた1点を守りきり優勝しました。

今大会は国内外のメディアに大きく取り上げられ、多くの方にブラインドサッカーを知ってもらうきっかけになりました。パラリンピック初出場を目指す日本代表の今後の活躍が大いに期待されます。



日本vs中国



大勢の日本サポーター



優勝したブラジル代表

第11回 JISSスポーツ科学会議

スポーツ科学、次へのステップ
～ソチとこれからのサポート～

2014年11月21日（金）、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）において「第11回JISSスポーツ科学会議」を開催しました。2016年リオデジャネイロ、そして2020年東京で開催されるオリンピック・パラリンピックに向け、国立スポーツ科学センター（JISS）が行う研究・サポートの次のステップを見据えた内容としました。



招待講演の石川氏

プログラム

■招待講演

「最先端高速画像処理技術のスポーツ科学への応用」
石川正俊氏（東京大学情報理工学系研究科創造情報学専攻教授）

■特別講演

「ハイパフォーマンスアスリートのためのコンディショニング：最新の研究成果と現在の傾向」
Robert Newton氏（エディンバラ大学エクササイズ&スポーツ科学教授）

■鼎談

「審判への医科学サポートと国際競技力向上」
浅見俊雄氏（元JISSセンター長）
西村雄一氏（サッカー国際主審／プロフェッショナルレフェリー）
土肥美智子（JISS副主任研究員）

■シンポジウム

「ソチオリンピックのサポート活動」
・冬季スポーツのJISS科学サポート（スキー・スノーボード競技）
・マルチサポートハウスの活動概要
石毛勇介（JISS副主任研究員）
・冬季スポーツのJISS科学サポート（スケート競技）
横澤俊治（JISS研究員）

■ポスターセッション

鼎談風景



本会議の内容については、JISSウェブサイト（<http://www.jpnsport.go.jp/jiss/>）にて映像を公開予定です。過去の会議映像も配信中ですので、是非ご覧ください。

第12回 主要スタジアム情報交換会

開催日：2015年1月27日(火)～28日(水)

国立競技場では、国内主要スタジアムにおけるより良いグラウンドコンディションの維持や、施設の管理運営の方策を探り、スポーツターの普及・発展並びにスポーツ振興に寄与することを目的とし、主要スタジアム情報交換会を年1回開催しています。

第12回を迎えた今回は国立競技場建替えに伴い、味の素スタジアムと東京競馬場で開催し、41施設、総勢134名の方にご参加いただきました。

情報交換会



■ 基調講演

大金直樹氏
東京フットボールクラブ株式会社 (FC東京) 常務取締役 (役職は1/27現在)
「J1クラブマネジメントとしての考え方や要望、あるいはサッカー界全体への提言」というテーマで、FC東京のこれまでの歴史や理念をご講演いただきました。

ファン・サポーターに対する、「青赤横丁」をはじめとした飲食売店サービス向上のための取組みや、スタッフによる開場前のスタンド全席拭き掃除など、『ホームスタジアム』としての満足度を高めるための取組みについてご紹介いただきました。

また、スタジアムを利用する立場(運営)からピッチコンディションを改善するために取り組んだスタジアムスタッフとの『ピッチコンディションミーティング』のお話は、管理する側の参加者にとって、大変興味深い内容となり、FC東京のクラブ理念を反映した内容でした。

【プログラム】		
時間		内 容
13:00	開会式	【開会挨拶】 独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立競技場長 小管司
13:15	基調講演	【講演】 テーマ：「J1クラブマネジメントとしての考え方や要望、あるいはサッカー界全体への提言」 講演者：東京フットボールクラブ株式会社 常務取締役 大金直樹氏
14:30	第1分科会 (スポーツターフ部門)	【講演】 テーマ：「芝生・芝草に関する最近の話題」 講演者：明治大学農学部教授 興水肇氏
17:00		【事例発表】 テーマ：「スポーツ祭東京2013における芝生保護への取組」 発表者：株式会社東京スタジアム 総務部総務課施設係 近藤隆文氏 森村有希氏
14:30	第2分科会 (管理運営部門)	【事例発表1】 テーマ：「SAYONARA国立競技場プロジェクト」報告 発表者：独立行政法人日本スポーツ振興センター 国立競技場 事業課長 古泉修
17:00		【事例発表2】 テーマ：「味の素スタジアムの事業運営について」 発表者：株式会社東京スタジアム 総務部事業課長 加藤啓一氏

1月28日(水) * 2日目 会場：味の素スタジアム、東京競馬場

時間	施設見学
10:00	味の素スタジアム (西競技場・アミノバイタルフィールド・投てき練習場、等)
11:30	
13:00	東京競馬場
14:45	

■ 第1分科会 (スポーツターフ部門)

第1分科会では、明治大学農学部教授興水肇氏に、「芝生・芝草に関する最近の話題」として、雑草、病気などに関する論文を紹介しながら、芝生管理についてご講演いただきました。

次に、味の素スタジアムで昨年度行われた「スポーツ祭東京2013における芝生保護への取組」と題して事例発表を行っていただきました。国体のメイン会場として開会式のリハーサルが芝生上で何度も行われ、芝生が傷んでしまうことが予想されたため、それを防ぐための保護策などは、各施設とても興味深く聞いていました。

■ 第2分科会 (管理運営部門)

第2分科会では、半世紀にわたる歴史に敬意と感謝を表すために行われた「SAYONARA国立競技場」プロジェクトの実施報告を国立競技場事業課長古泉修より発表いたしました。本プロジェクトでは、名勝負が繰り広げられた場所や名所を巡るスタジアムツアーからグッズの制作、昨年5月31日に行われたファイナルイベント「SAYONARA

国立競技場FINAL "FOR THE FUTURE" など、様々なイベントを実施し、多くの方に喜んでいただきました。

次に、「味の素スタジアムの事業運営について」と題し、株式会社東京スタジアム総務部事業課長加藤啓一氏から、主催イベントや営業方法などを詳細にご発表いただきました。独立採算制で実施している事例は珍しく、非常に参考になるお話でした。

■ 施設見学

～味の素スタジアム～

施設見学では、味の素スタジアムと東京競馬場を見学しました。味の素スタジアムでは、併設されている西競技場やアミノバイタルフィールド、投てき練習場を見学しまし

味の素スタジアム施設見学



東京競馬場施設見学



■ おわりに

今回の情報交換会は味の素スタジアムのご協力により無事に開催することができました。実際にスタジアムを利用するクラブ側としての意見や、様々なスポーツやイベントを実施している施設ならではの事例は、Jリーグのホームスタジアムとして管理運営しているスタジアムの担当者にとって非常に参考になったようでした。また、競馬場を見学したこと

で、スタンドや来賓エリア、競馬のための芝生管理方法など、一般のスポーツスタジアムとは違った部分を見ることにより、より一層各々のスタジアムについて見直すことができたのではないのでしょうか。様々な課題を抱えているスタジアムが一堂に会し、情報交換やスタジアム間のつながりを作ることで、スポーツを支える施設のさらなる充実のきっかけを持つことができました。今後も継続して本情報交換会を開催し、スポーツ振興に寄与してまいりたいと思います。

スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート

第3回

国立競技場事業課

国立競技場では、平成24年を「Jリーグ開幕」から20年、「2002FIFAワールドカップ(日韓共催)」から10年という、日本サッカー界における節目の年と位置付け、2002FIFAワールドカップ開催会場を対象とし、右のテーマに基づく調査研究を行いました。

スタジアムの変遷をたどることで、施設利用者、観客、地域社会等から求められるスポーツ施設のあり方を探り、またその結果を施設関係者・スポーツ関係者に提供することによって、施設改修や大規模スポーツ大会時の参考資料となるようにまとめました。

調査概要	
■テーマ	「Jリーグ開幕」及び「2002FIFAワールドカップ開催」からのスタジアムにおけるソフト面・ハード面の変遷を調査し、10年・20年の記録としてまとめる。
■期間	平成24年11月～平成25年3月
■対象	大分銀行ドーム／ノエビアスタジアム神戸／ヤンマースタジアム長居／エコパスタジアム／デンカビッグスワンスタジアム／日産スタジアム／埼玉スタジアム2002／茨城県立カシマサッカースタジアム／ひとめぼれスタジアム宮城／札幌ドーム ※本調査で記載のスタジアム呼称等に関しては、平成27年1月時点での呼称を表記しております。
■方法	アンケート及びヒアリング
■調査報告	本誌へ掲載 (各回2スタジアム、計5回)



サッカー界の変遷

まず、スタジアムの変遷をたどる上で重要な背景となる日本サッカー界の歴史について調査しました。

右表は、過去24年間の日本サッカー界の歴史について主な出来事、トピックス等を年表にまとめたものです。

また、右上のグラフは、Jリーグ開幕からの年間入場者平均の推移を示したもので、人気の移り変わりを示しています。

これらの背景を踏まえた上で、各スタジアムの変遷について調査を行いました。

写真提供：日刊スポーツ新聞社

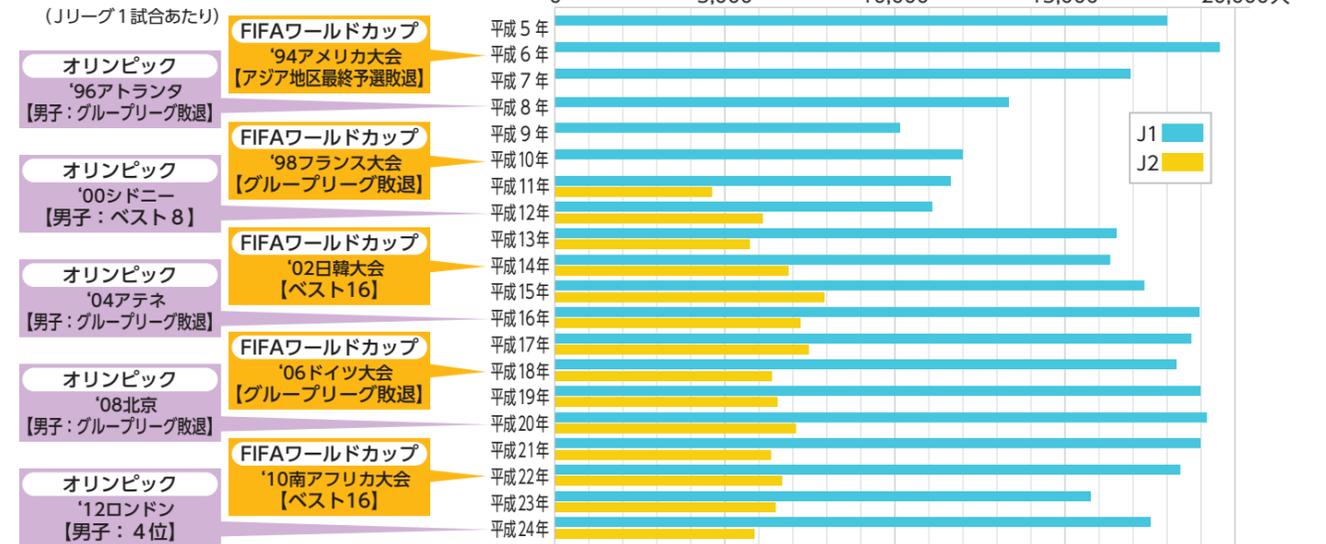


平成5年5月15日 Jリーグセレモニー

	主な出来事	トピックス	Jリーグ以外の大規模大会
平成元年度～平成4年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成元年 JFAが「プロリーグ準備検討委員会」設置。3年後にプロリーグ発足を目標とした。2002FIFAワールドカップ開催立候補の意思表示、招致活動開始 平成3年11月 社団法人日本プロサッカーリーグが正式に発足 平成4年5月 Jリーグプレ開幕戦として第1回ヤマザキナビスコカップ開催 	<ul style="list-style-type: none"> 平成元年 Jリーグは、理念・活動方針として【日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進/豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与/国際社会における交流及び親善への貢献】を掲げた。 平成4年 天皇杯はJリーグ所属チームおよび9地域代表の全32チームに出場権が与えられた。 	
平成5年度～平成8年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成5年 Jリーグ開幕(5月15日)。プロサッカー初のリーグ戦スタート(10クラブ) 平成5年 FIFAワールドカップアメリカ大会 アジア地区最終予選敗退(ドーハの悲劇) 平成8年 「Jリーグ百年構想」をキーワードとした広報活動開始 平成8年5月 2002FIFAワールドカップ日韓共催決定 	<ul style="list-style-type: none"> 平成5年 Jリーグ開幕(5月15日)。国立競技場に59,626人が来場した。この日のチケットは抽選制で、チケットには購入者の名前が刻印され、記念となるように考案された。 公認グッズ店が爆発的人气・チアホーンによる騒音問題が表面化 	<ul style="list-style-type: none"> 平成8年 アトランタオリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：グループリーグ敗退)
平成9年度～平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年 FIFAワールドカップフランス大会に日本初出場 平成11年 J1、J2の1・2部制開始 平成12年 FIFAクラブ世界選手権2000(第1回大会)開催 	<ul style="list-style-type: none"> 平成9年 日本初のサッカーナショナルトレーニングセンター「ヴィレッジ」が福島にオープン 平成11年10月 横浜マリノスと横浜フリューゲルスが合併。他のクラブでも出資企業が撤退するなど、メディアではクラブの経営危機が喧伝された。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成10年 FIFAワールドカップフランス大会(グループリーグ敗退) 平成12年 シドニーオリンピック(男子：ベスト8)
平成13年度～平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年 toto(スポーツ振興投票)の導入開始 平成14年 FIFAワールドカップを日本と韓国が共同開催 	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年 選手育成プロジェクトとして「Jリーグアカデミー」、選手のセカンドキャリアの支援として「Jリーグキャリアサポートセンター」を始める。 平成15年 「Jリーグ百年構想」の一環で、芝生をモチーフにした「Mr.ピッチ」によるプロモーションを展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成14年 FIFAワールドカップ日韓大会(ベスト16) 平成16年 アテネオリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：ベスト8)
平成17年度～平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年 J1が2ステージ制から1ステージ制へ 平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会に日本代表出場 平成19年 FIFAクラブワールドカップで浦和レッズ3位 平成20年 FIFAクラブワールドカップでガンバ大阪3位 	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年 エリート育成機関「JFAアカデミー福島」開校 平成19年 イレブンミリオンプロジェクト開始。「2010年シーズンに年間1100万人の観衆を集めよう」という目標を掲げ、キャンペーンを展開。※結果、総入場者は864万5762人 	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会(グループリーグ敗退) 平成20年 北京オリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：4位)
平成21年度～平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカに日本代表出場 	<ul style="list-style-type: none"> 平成21年3月 Jリーグ公式試合通算入場者数が1億人を突破 平成24年 <ul style="list-style-type: none"> Jリーグクラブライセンス制度施行 公益社団法人日本プロサッカーリーグに移行 Jリーグ20周年特別企画 開幕戦をネット放送 J1昇格プレーオフ、J2・JFL入替戦制度 	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカ大会(ベスト16) 平成23年 FIFA女子ワールドカップドイツ大会(優勝) 平成24年 ロンドンオリンピック(男子：4位/女子：銀メダル)

※年表中のチーム名に関しては、当時の名称にて表記しています。

年間入場者平均の推移





調査対象スタジアム

(2002FIFAワールドカップ開催スタジアム)

掲載順

- 第1回……大分銀行ドーム
(Vol.603掲載) ノエビアスタジアム神戸
- 第2回……ヤンマースタジアム長居
(Vol.604掲載) エコパスタジアム
- 第3回……デンカビッグスワンススタジアム
(今回掲載) 日産スタジアム
- 第4回……埼玉スタジアム2002
茨城県立カシマサッカースタジアム
- 第5回……ひとめぼれスタジアム宮城
札幌ドーム

デンカビッグスワンススタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：42,300名
- 所有 者：新潟県
- グループL 6/1 アイルランド×カメルーン (1-1)
- グループL 6/3 クロアチア×メキシコ (0-1)
- 決勝T 6/15 デンマーク×イングランド (0-3)

ヤンマースタジアム長居

- 開 場：昭和39年 ●収容人員：47,816名
- 所有 者：大阪市
- グループL 6/12 ナイジェリア×イングランド (0-0)
- グループL 6/14 チュニジア×日本 (0-2)
- 決勝T 6/22 セネガル×トルコ (0-1)

ノエビアスタジアム神戸

- 開 場：平成13年 ●収容人員：30,132名
- 所有 者：神戸市
- グループL 6/5 ロシア×チュニジア (2-0)
- グループL 6/7 スウェーデン×ナイジェリア (2-1)
- 決勝T 6/17 ブラジル×ベルギー (2-0)

大分銀行ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：40,000名
- 所有 者：大分県
- グループL 6/10 チュニジア×ベルギー (1-1)
- グループL 6/13 メキシコ×イタリア (1-1)
- 決勝T 6/16 スウェーデン×セネガル (1-2)

エコパスタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：50,889名
- 所有 者：静岡県
- グループL 6/11 カメルーン×ドイツ (0-2)
- グループL 6/14 ベルギー×ロシア (3-2)
- 決勝T 6/21 イングランド×ブラジル (1-2)

日産スタジアム

- 開 場：平成10年 ●収容人員：72,327名
- 所有 者：横浜市
- グループL 6/9 日本×ロシア (1-0)
- グループL 6/11 サウジアラビア×アイルランド (0-3)
- グループL 6/13 エクアドル×クロアチア (1-0)
- 決勝T 6/30 ブラジル×ドイツ (2-0)

札幌ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：53,738名
- 所有 者：札幌市
- グループL 6/1 ドイツ×サウジアラビア (8-0)
- グループL 6/3 イタリア×エクアドル (2-0)
- グループL 6/7 アルゼンチン×イングランド (0-1)

ひとめぼれスタジアム宮城

- 開 場：平成12年 ●収容人員：49,000名
- 所有 者：宮城県
- グループL 6/9 メキシコ×エクアドル (2-1)
- グループL 6/12 スウェーデン×アルゼンチン (1-1)
- 決勝T 6/18 日本×トルコ (0-1)

茨城県立カシマサッカースタジアム

- 開 場：平成5年 ●収容人員：40,728名
- 所有 者：茨城県
- グループL 6/2 アルゼンチン×ナイジェリア (1-0)
- グループL 6/5 ドイツ×アイルランド (1-1)
- グループL 6/8 イタリア×クロアチア (1-2)

埼玉スタジアム2002

- 開 場：平成13年 ●収容人員：63,700名
- 所有 者：埼玉県
- グループL 6/2 イングランド×スウェーデン (1-1)
- グループL 6/4 日本×ベルギー (2-2)
- グループL 6/6 カメルーン×サウジアラビア (1-0)
- 決勝T 6/26 ブラジル×トルコ (1-0)

- 今回掲載スタジアム
- 次回掲載スタジアム

デンカビッグスワンスタジアム (新潟スタジアム)

所有者：新潟県

管理運営者：アルビレックス新潟・都市緑花センターグループ

所在地：〒950-0933 新潟県新潟市中央区清五郎67番12

●特徴

新潟市の中心部からわずか4kmにありながら豊かな自然が多く残る鳥屋野潟は、冬季には白鳥をはじめとして多くの渡り鳥が飛来する。その中のスポーツ公園に所在する新潟県立鳥屋野潟公園新潟スタジアムは、スポーツレクリエーションの活動の拠点として幅広い年齢層に対応した総合スポーツゾーンとして整備された。韓国との共同開催となった2002FIFAワールドカップの舞台として使用され、国内開幕戦をはじめ計3試合が行われた。現在は、Jリーグ・アルビレックス新潟のホームスタジアムとなり、新潟のスポーツの拠点となっている。平成19年に東北電力株式会社が命名権を取得し「東北電力ビッグスワンスタジアム」となった。平成26年からは電気化学工業株式会社が命名権を取得し「デンカビッグスワンスタジアム」となった。

●競技場概要

開場：平成13年 建設費：312億円
 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、地上5階建、鉄骨造及びテフロン膜構造
 収容人員：約42,300名 フィールド：107m×72m
 概要：日本陸上競技連盟第1種、IAAF国際陸上競技連盟クラス1
 芝生：寒地型西洋芝3種類（ケンタッキーブルーグラス、ペレニアルライグラス、トールフェスク）
 付帯施設：新潟スポーツ展示室
 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター

●開催実績

- ・「新潟2001年宇宙の旅」でオープン（平成13年）
- ・FIFAコンフェデレーションズカップ（平成13年）
- ・2002FIFAワールドカップ（平成14年）
 グループリーグ：アイルランドvsカメルーン（1-1）
 グループリーグ：クロアチアvsメキシコ（0-1）
 決勝トーナメント：デンマークvsイングランド（0-3）
- ・J-2（新潟×大宮）42,223名：J2最多観客動員記録（平成15年）
- ・JOMOオールスター（平成16年）
- ・キリンチャレンジカップ（平成15・17・20・23・24・26年）
- ・アジアカップ（平成18年）
- ・ラグビー日本代表戦（平成20年）
- ・AFC女子アジアカップ2010壮行試合（平成22年）
- ・第64回国民体育大会及び第9回全国障害者スポーツ大会（平成21年）
- ・インターハイ陸上競技（平成24年）

●コンサート実施回数…7回（平成25年度まで）

- ・B's（平成14年）※初のコンサート利用
- ・SMAP（平成14年）・SMAP（平成15年）
- ・SMAP（平成18年）・Mr.Children（平成19年）
- ・EXILE（平成22年）
- ・東日本大震災復興支援K-POP ALL STAR LIVE（平成23年）



線は、冬季になると鳥屋野潟に飛来する白鳥をイメージしているところから、愛称は一般公募により「ビッグスワン」と命名された。

また、自然環境対応のひとつとして、芝生への散水やトイレ洗浄には多量の水が必要なことから、屋根面の降雨水を利用するため地下貯水槽（1,200t）とろ過装置を設置している。電源設備としても、停電時にも競技が継続できるよう常用発電機によるバックアップが可能となっている。

さらに、南側サイドスタンドにはフルカラーLED方式850inの大型映像装置を備え、スタンド上部とメインアーチ先端に設置された固定カメラと移動カメラによる実況映像を楽しむことができ、北側サイドスタンドにも表示面積42

m²の3色LED方式による電光掲示板が設置されている。

様々な高機能が装備されているビッグスワンでは、2002FIFAワールドカップ本大会は、開幕戦（アイルランドvsカメルーン戦）を含む、3試合が行われた。1試合目は、同日に札幌ドームで開催されたドイツvsサウジアラビア戦と共に日本における開幕戦となったが、試合は札幌ドームとは対照的に1-1の引き分けとなり、静かな立ち上がりとなった。2試合目のクロアチアvsメキシコについては豊富な運動量で終始圧倒し続けたメキシコが1-0で勝利をした。3試合目となるデンマークvsイングランド戦については、今大会一番の注目選手と言っても過言ではないイングランドのベッカム選手の活躍により、スタジアムは大いに沸いた。

2 ワールドカップ開催後から現在に至るまでの施設の変化

2002FIFAワールドカップの終了した平成14年10月から翌15年6月にかけて、陸上競技場（第1種陸上競技場）としての機能を備えるためトラックの新設工事を行った。これに併せ、平成16年4月に国際陸上競技連盟（IAAF）が定めるクラス1基準に国内初の認定を受け、国際競技大会の開催が可能なスタジアムとして整備された。また、スタジアム北側に隣接してサブグラウンド（第3種陸上競技場）も完成した。

(1) 観戦・施設設備

a グラウンド

●トラックの改修

平成15年に新設されたビッグスワン内陸上トラックの摩耗が顕著となり、日本陸連より第1種陸上競技場の認定更新がおこなえないとの指摘を受け、新潟県が平成25年7月から9月にかけてトラックの改修工事を行った。

また、サブトラックも同様の指摘を受け9月から10月にかけてトラックの改修工事を行った。

b スタンド

●屋根鉄骨部分の塗装

3年に一度実施が求められている、建設基準法に基づく施設点検の結果、スタンドの屋根下部分の一部で海風により生じたサビの修繕を要請され、新潟県が補修塗装を実施した。（平成22年）

c サイン関係

●施設全体のサインをユニバーサルデザインにより統一した表示に変更した。（平成15年度）

(2) 芝

- Jリーグベストピッチ賞を受賞（平成19・21・24・25年）
- 芝全面張替（平成26年実施）

新潟陸上競技協会よりピッチの高さが陸連で定めた高さより高く、投擲競技の記録に影響が生じていることから、平成26年春に張替えを行うことを決定した。

(3) その他

- 大型コンサート用の特殊養生の導入（平成18年度）

施設の利活用では、スポーツ以外の利用は平成14年からコンサートへの貸し出しが行われている。コンサートでは、フィールド上にステージや観客席が設置されることから、芝生保護のため養生材を芝の上に敷き詰めることとなるが、当スタジアムは寒冷地型西洋芝を使用していることから特に夏場に弱く、コンサート後は養生材の「足」が芝生に接した部分に枯れ等が生じることから3週間程度の養生期間が必要であった。養生期間を短縮し、利活用を増加させるため、養生材の下にもう1枚別の緩衝材を敷くことによる芝への影響を軽減する手法を考案し平成23年に特許を取得した。この手法の導入により平成18年以降のコンサートにおいては、芝生へのダメージはほとんどなく芝生保護において顕著な成果を得ている。

- 新たな施設利活用

大規模施設として、関係各位のご協力のもと、前記「開催実績」で記載のとおり各種の大規模大会の開催が行われ、新潟県のスポーツ及び芸術文化の向上に大きく寄与できたものと自負している。

1 建設から現在に至るまでの歴史

～世界に誇る湖を生かした県民のレクリエーション・健康・スポーツの拠点～

鳥屋野潟スポーツ公園は、豊かな自然と高速交通網の結節点として恵まれた条件を有することから、昭和49年に鳥屋野潟公園の都市計画に位置づけられ、広域レクリエーション需要に対応するため鳥屋野潟の自然を利用し、県民の健康増進とスポーツレクリエーションの拠点として、新世紀に向けた新潟の都市づくりの核として整備が計画された。

当初スタジアムは、平成21年第64回国民体育大会開催に備え3万人規模のスタジアムとして設計されたが、後に2002FIFAワールドカップの国内開催地に選定されたため、別途準備していた4万人規模の設計に差し替えて建設され、平成13年3月に竣工した。他のスタジアムと比べて特筆すべきなのは、「ダブルクロスアーチ+テンションリング構造」

を採用したことだ。この構造は、敷地の地盤や積雪などを考慮し、構造上の安全性確保のための厳しい設計条件の下、これまで類例のあまりない4本のメインアーチを井桁状に組み合わせ、アーチを受けるテンションリングで屋根全体を一体化するものである。（平成13年日本鋼構造協会業績表彰：業績賞受賞）

これにより、スタンドは2層式を採用し、観客席はどの席からも見やすいよう高さ勾配をとっている。

スタンドの90%を覆う屋根は、スタジアムを外部から遮断し、声援が屋根に反響することによって場内の興奮を一層盛り上げる効果があり、より臨場感が高まるように配慮している。メインアーチとサブアーチで構成された優美な曲



大規模イベント以外においても、近年は以下のような大会、イベントの開催場所として使用されているほか、指定管理者として新たな利用方法を提供することで、身近なスタジアムとして認識されているものと考えている。

【大会等】

- 民間企業の運動会
- 幼稚園のマラソン大会
- 中学校、高等学校、専門学校、大学の体育祭など

【自主事業】

- 新潟まつり花火大会の観覧場所

- スポーツ公園フェスタ、新春フェスタ
- 陸上教室
- 芝生を思い切り楽しもう（ピッチの県民開放）
- エンジョイラン（公園全体を利用したマラソンイベント）など

また、大会等が開られない平日において諸室の一般貸出しを行っているが、開館当初より、この利用者が年々増加しており、スタジアムの収入、利活用の拡大に大きく寄与している。

3 ソフト面の変化・チームとの関係性

～災害を乗り越えたスタジアム、スタジアムとしての取り組み～

【災害地対応】

建設後、被災地として、又被災者の受け入れ拠点として、二度も災害と向き合ってきたスタジアムも珍しい。

平成16年10月に発生した中越地震では、被災地支援の自衛隊キャンプ地の一部となり、隊員の寝泊りする場所として使用されたほか（10月25日～11月10日）、炊き出しなどが行われた。また、平成23年3月の東日本大震災時は、新潟県へ避難されてきた被災者を受け入れる避難施設の案内窓口が置かれ、当日に受け入れ先が見つからないような場合には、毛布などを貸し出して寝泊りの対応も併せて実施した。

【ボランティア活動】

平成20年度からスポーツ公園ボランティアの一般募集を開始し、Jリーグ以外の大会運営サポート業務などの活動を開始（登録数は20名～30名）。Jリーグ時のボランティアに関しては、チーム（アルビレックス）側でチームボランティアを組織し、スタジアムボランティアとは運営を分けているのも特徴的だ（登録数は140名程度で毎試合60名～70名が活動している）。

【ネーミングライツ】

平成17年、新潟県は新潟スタジアムに施設命名権導入の方針を決定した。平成19年1月に東北電力株式会社との間で契約が成立し、スタジアムの呼称は「東北電力ビッグス

ワンスタジアム」となった。

平成25年末までが東北電力株式会社とのネーミングライツ契約期間だったため、新潟県は新たなスポンサーを募集することとなった。これに際し、平成25年5月より新潟県はネーミングライツの価値向上を目指し、当スタジアムをホームスタジアムとするアルビレックス新潟と共同で募集することとした。この募集により、新たなパートナーとして、電気化学工業株式会社と平成26年1月より3年間のネーミングライツ契約が締結され、「デンカビッグスワンスタジアム」の名称となった。

【アルビレックス新潟との関係性】

平成13年以降、J1・2リーグ及びヤマザキナビスコカップでスタジアムを使用されており、クラブの集客努力と日本海側最大級のスタジアム効果により、毎試合3万名以上、最も多いシーズンでは60万名以上のサポーターに会場いただいていた。平成19年からは指定管理者グループの一員として、特にJリーグやサッカー代表戦などのスポーツ競技では過去に培った運営ノウハウや人的ネットワークを発揮いただくとともに、スタジアムの利用調整では、日程変更の困難な大会、イベントを優先してJリーグの開催日程を決定しており、円滑な運営と利用の拡大に大きく寄与している。

4 今後の展望と課題

●施設、設備の経年劣化による更新及び修繕の増加

完成から13年が経過し、特に設備が老朽化してきており更新が必要となってきたが、施設所有者の新潟県は財政が厳しい折、更新の予算確保が難しく管理に苦慮する状況が生じている。また、小修繕も年々増加してきてい

ることから維持管理に必要な予算も増加傾向にある反面、指定管理者の予算は縮減を求められている。今後の課題としては、収入の増加を図るため、一層の利活用の促進に向けた努力が必要である。

スポーツ施設調査「2002 FIFAワールドカップ開催スタジアム10年の変遷」

日産スタジアム



所有者：横浜市
 管理運営者：横浜市体育協会・横浜マリノス・管理JV共同事業体
 所在地：〒222-0036
 横浜市港北区小机町3300

●特徴

日本最大の72,327席の観客収容能力を誇る屋外多目的競技場。鶴見川の洪水被害を最小限に留めるための遊水地としての機能を備えており、地上から8m持ち上げた構造になっている。こけら落としは平成10年3月のサッカー・ダイナスティカップで、同月行われたJリーグの試合では横浜マリノスvs横浜フリューゲルス横浜ダービーマッチとなり、52,083名を動員した。2002FIFAワールドカップの決勝戦が開催され、同大会で日本代表がW杯初勝利を挙げたスタジアムである。日本陸連公認の第1種陸上競技場でもあり、「スーパー陸上」も開催された。

●競技場概要

開場：平成10年
 建設費：603億円
 スタンド・構造：2階層式（地上7階式屋根）
 収容人員：72,327名
 （ワールドカップ開催時70,564名）
 芝生面積：107m×72m
 芝生：ティフトン419（夏芝）
 ペレニアルライグラス（冬芝）
 付帯施設：日産ウォーターパーク、横浜市スポーツ医学センター、レストラン、ショップ

●開催実績

- ・第53回国民体育大会「かながわ・ゆめ国体」（平成10年）
- ・キリンカップ・サッカー（平成10年～）
- ・スーパー陸上（平成12年～平成19年）
- ・FIFAコンフェデレーションズカップ2001（平成13年）
- ・2002 FIFAワールドカップ（平成14年）
 グループリーグ：日本vsロシア（1-0）
 グループリーグ：サウジアラビアvsアイルランド（0-3）
 グループリーグ：エクアドルvsクロアチア1-0
 決勝トーナメント：ドイツvsブラジル 0-2
- ・トヨタカップ（平成15年）
- ・2006 FIFAワールドカップアジア最終予選（平成17年）
- ・FIFAクラブ世界選手権（平成17・18・19・20・23・24年）
- ・2010 FIFAワールドカップ・アジア最終予選（平成21年）

●コンサート実施回数……24回（平成25年度まで）

- ・B'z（平成11・14・20・25年）
- ・矢沢永吉（平成11・24年）
- ・SMAP（平成15・17・18年）
- ・サザンオールスターズ（平成15・20・25年）
- ・THE ROCK ODYSSEY（平成16年）
- ・Mr.Children（平成16・19・23年）
- ・ゆず（平成17年）
- ・EXILE（平成22年）
- ・L'Arc~en~Ciel（平成24年）
- ・ももいろクローバーZ（平成25年）
- ・GLAY（平成21年）
- ・X JAPAN（平成22年）
- ・AKB48（平成25年）
- ・東方神起（平成25年）

1 建設からFIFAワールドカップ開催までの歴史

～決勝会場となった国内最大のスタジアム～

横浜国際総合競技場は昭和56年、旧建設省の「鶴見川多目的遊水地」事業に、横浜市が共同事業として行う「横浜総合運動公園整備」の中核として計画された。平成2年、神奈川国体（平成10年）が決定し、平成6年にスタジアム着工。4年の工期を経て、国内最大の総合競技場が誕生した。鶴見川の洪水被害を最小限に留めるための遊水地としての機能を備えており、川から溢れ出た水を貯留するため、スタジアムは1,100本の柱で、地上から8m持ち上げた構造となっている。「観戦しやすい、プレーしやすい、報道しやすい、運営しやすい」を基本コンセプトに設計されたスタジアムは国内最大の72,327

席。前席との間が90cmとゆったりとしており、観客席とフィールドの距離を近づけるため、2階席を10m張り出した構造となっている。また、1階席前列とトラックとの高低差が75cmでトラックを走る陸上選手と同じ目線で観覧が可能となっている。しかし、サッカー観戦においてはベンチが視界を遮ることになり、1階席前の数列は見切席としてチケット販売しないなどの運用をしている。観客スタンドの下には、市民の健康づくりの拠点として「日産ウォーターパーク（レジャープール）」、「横浜市スポーツ医学センター」等の施設がある。また、雨水貯留槽も備え砂ろ過処理した後にフィールド散水や一部のトイレ用水などに利用している。



こけら落としは平成10年3月に開催されたサッカー国際大会の第4回ダイナスティカップ。日本vs韓国では59,380名を動員した。3月21日には、Jリーグでの初使用として「横浜ダービーマッチ」の横浜マリノスvs横浜フリューゲルスが行われた。平成10年10月にはかながわ・ゆめ国体が開催され、国体の開会式としては史上最高の5万名が会場に訪れた。

平成11年、横浜F・マリノスの主催試合は、リーグ戦・ナビスコカップ共に全て日産スタジアムで開催された。平成11年B2がコンサートを開催し2日間で140,000名を動員、日産スタジアムにとって初の音楽イベントとなった。平成12年は5月から8月はワールドカップ準備で芝生張替えのため一旦使用を中止している。芝生の地下部分はヒーティングシステムを導入、芝生育成のために適正な温度管理をしている。美しい芝生の管理が実現し、平成13年「J1ベストピッチ賞」の第1回受賞スタジアムとなり、その後も平成22・23・24年と合計4回受賞している。

ワールドカップ開催準備期間、横浜市は市民・企業・関係機関などが一体となって招致活動を行った。新幹線を使えるアクセスの良さ、ホテル等の充実、日本最大の収容力はもちろんのこと、良質な芝生をアピールし、決勝の開催を決定した。ワールドカップのプレ大会ともいえるFIFAコンフェデレーションズカップ2001(平成13年)では、どしゃ降りの雨の中、日産スタジアムで準決勝が行われたが、芝には水溜りは一切

できず、選手へ素晴らしいピッチを提供でき、評判を呼んだ。また、さまざまなプロジェクトを通して各種イベントの実施・ボランティア活動の展開・警備対策など準備が進められた。みなどみらい21地区に情報発信拠点を開設し、トークショー、フットサル大会、コンサート、シンポジウム等を開催。FIFAコンフェデレーションズカップ2001では、パブリックビューイングも実施した。スタジアムは貴賓席や来賓席は通常418席だが、ワールドカップ時には1,200席を超える座席を用意、288席の報道関係者席は2,700席に増やした。また、仮設トイレを増設するなど決勝会場にふさわしい体制を整えていった。

試合日の観客輸送については、混乱を防止するため最寄駅からのルートにおいて、入場ゲート別の分離誘導を実施し、鉄道各社の協力のもと臨時列車を運行するなど、滞りなく安全な輸送を行うことができた。

横浜での初戦となった6月9日の日本vsロシアでは、横浜を中心に日本全体がワールドカップ一色に染まり、歴史的勝利が決まった瞬間にはスタジアム内外で「ニッポンコール」が鳴り響いた。決勝では、ブラジルが2大会ぶり5度目の優勝を成し遂げた。クロージングセレモニーでは、スタンド上部から日本を象徴する折り鶴270万羽が会場屋根から一斉にスタジアムを舞い、1ヶ月の世界の祭典を惜しむようにいつまでも歓声が鳴り響いた。

2 FIFAワールドカップ開催後から現在に至るまでの施設の変化

平成9年度の竣工から15年が経過し、建物や機器設備の劣化が進んでいることから、横浜市において平成22年度に保全計画を策定し、平成24年度からはこれに基づく計画的な施設の維持管理を始めているところである。保全計画の期間は30年間と長期にわたるもののため、指定管理者と調整しながら実際に必要な内容を精査した上で工事を実施している。

(1) 施設設備

a 観戦環境

- 西側スタンドのVIP席・記者席に雨よけのため可動庇設置(平成12年)
- 収容人員を70,564名から72,327名に増設(平成14年)
- 2002FIFAワールドカップ開催前、FIFAからの要望により4階貴賓室改修(平成14年)
- 和式トイレを一部洋式に変更(平成14年)
- 観客席増席、テラスボックス設置、記者席一部位置変更(平成14年)
- 大型映像設備(表示装置、競技場音響設備)LED化(平成22年)
- 大型映像設備(映像送出装置)改修(平成22年)
- 外壁一部補修(平成23年)
- 記者席手元照明を一斉取替(平成24年)

- 4階コンコース床面一部塗装、スタンド階段段鼻ノンスリッパ化(平成24年)
- #### b 環境・エコ
- 大屋根に降った雨を貯留し、砂ろ過後、フィールド散水、トイレ便器洗浄に利用している。(平成10年)
 - 近隣の横浜市港北水再生センターの処理水を空調の熱源として利用後、トイレ便器洗浄、新横浜公園内のグラウンド散水、植栽、修景水路に利用(平成10年)
 - 剪定枝や刈りとった草を粉碎して樹木の根元に撒くなどのリサイクルを開始(平成19年)
 - 省エネの推進、各廃棄物のリサイクル等を実施し、ISO14001環境マネジメントシステム認証を取得(平成21年)
 - 熱源設備の改修、空調機や給排気ファンのインバータ化、高効率ヒートポンプチャラーの導入、照明機器のLED化。(平成22年)
 - 芝生管理作業で発生する残材を芝単体と砂に完全分離。分離した芝は可燃ゴミとして処分し、砂も芝生管理作業で再利用している。(平成23年)
 - 競技場4Fコンコース照明LED改修(平成23年)
 - 5Fコンコース水銀灯の交換(平成24年)
- #### c 芝・トラック
- 全面で大量の裸地が発生したため、バミューダグラスの播

- 種を実施(平成10年)
- ※平成11年以降、毎年、ティフトン苗の捕植を実施
- 陸上競技の規定改正に伴い、投擲落下域を芝生外に移設(平成12年)
- W杯開催のため、ゴール裏部(3m×72m=216㎡×2カ所)の芝生部拡張工事を実施(平成13年)
- W杯開催のために拡張した芝生部のウレタン復旧工事を実施。(3m×72m=216㎡×2カ所)(平成14年)
- 平成13、22~24年にかけてベストピッチ賞受賞

- 陸連検定のため、フィールドトラック改修(平成19・24年)
- #### d その他
- 新横浜公園第1駐車場内の一部スペースを人工芝フットサルコート「しんよこフットボールパーク」として利用している。(平成16年)
 - スタジアム隣接のレストラン棟にスポーツグッズの販売およびレンタルを展開する「XSPOT(クロススポット)」がオープン。(平成23年)

3 ソフト面の変化、地域・チームとの関係性

～横浜F・マリノスとの共生、環境への徹底した取り組み～

横浜F・マリノスのホームスタジアムとなっており、近年は、日産スタジアムでリーグ戦の大部分及び一部のカップ戦を実施、残るリーグ戦の数試合とカップ戦の多くをニッパツ三ツ沢球技場で開催している。

スタジアムの東ゲート前に「トリコロールワン」というスタジアムショップがあり、マリノスグッズのオフィシャルショップとして常時営業している(定休日火曜)。試合当日は、東ゲート前噴水広場に「トリコロールランド」と呼ばれるテーマパークが設けられ、バンド演奏に各種アトラクション、ケータリングカー、ブース出店など、誰もが楽しめるイベントが開催されている。

横浜F・マリノスのホームゲームの場合は試合ごとに「駐車券」を販売し、その所持者のみにスタジアム内の駐車場利用を認めている。また、スタジアム主導の取り組みとして、今までもコップのリユースを実施していたが、ゴミそのものを減らすために、最近ではマイボトルの利用促進を進めている。ボトル持参者には、スタジアム内の売店でドリンクが10円割引きとなる。

駅からスタジアムまでの距離では小机駅が約600mと最も近く、サッカーではホームチームのサポーターが集まる北サイドスタンド、及びメインスタンドの入口になる西ゲートではより近くなる。しかし、新横浜駅と比較すると小机駅は小さく周辺の商業施設もほぼ皆無であるということと、東海道新

幹線や市営地下鉄の利用客にとっては新横浜駅での乗換という手間もかかるため、小机駅を利用する観戦客の比率は低い。混雑緩和策の一環として、横浜市やJR東日本では小机駅の利用を呼びかけているが効果は出ていない。

横浜市は平成15年以来、総合競技場をはじめとする新横浜公園内各施設について命名権の スポンサー企業を募集していた。平成16年10月に横浜市は日産自動車と5年間契約に合意し、公園内にある3施設の呼称を変更することが決まった。国際大会など大会・興行の スポンサー以外の企業名称が使用できない場合は、正式名称である「横浜国際総合競技場」を使用する。平成22年3月に3年契約を新たに交わし、「日産フィールド小机」「日産ウォーターパーク」とともに「日産スタジアム」の名称が継続されることになった。

Jリーグや陸上競技などのスポーツ大会だけではなく、自主事業にも積極的に取り組み、収益の向上や市民への認知を高めている。スタジアムと公園内をコースとする自転車耐久レース「サイクルパークフェスティバル」、公園の豊かな自然を活かした「歳時記イベント」、フィールド上にヴァージンロードを設置して行う「スタジアムウェディング」、W杯ファイナルスタジアムを選手目線で体験できる「スタジアムツアー」など、多岐にわたる事業を展開している。これらの自主事業の多くは、スタジアム運営ボランティアの協力により実施している。

4 今後の展望と課題

～日産スタジアムの未来～

オープンから17年を迎えた現在では、修繕を要する箇所の増加が目立ちはじめ、情報ネットワーク環境の整備も求められている。横浜市の施設であるため、所管局と密に連携を図り施設の「長寿命化」を目指した予防修繕を積極的に進める計画を整えている。

当スタジアムのホームチームである横浜F・マリノスは指定管理者の共同事業体の一員でもあることから、ホームタウンイメージ向上策として、近隣駅からスタジアムまでのルー

トでのバナー設置、集客増加に向けた場内コンコース内の装飾、観戦ガイド冊子の制作等の共同事業を展開している。他にもマリノス選手会サッカー教室やスタジアムピッチ体験イベント等の共催イベントも企画・実施している。このような共同事業実施の背景には、スタジアムとマリノスのメンバーによるプロジェクト会議での定期的な議論の積み重ねがある。今後もサポーターをはじめとする多様化するニーズに対応すべく、質の高いサービス提供を目指している。

2015
3月号

SCHEDULE

代々木第一体育館

コンサート	musicるTV × BREAK OUT presents LOVE BOX 2015 (3/1)
就職 セミナー	I T業界を知るためのCareer Forum (3/3)
就職 セミナー	女子学生のためのキャリア発見応援イベント Woman's Career Forum (3/4)
コンサート	堀江由衣をめぐる冒険V～狙われた学園祭～ RED DAY (3/7)
コンサート	堀江由衣をめぐる冒険V～狙われた学園祭～ BLUE DAY (3/8)
フットサル	PUMA CUP 2015 第20回全日本フットサル選手権 (3/13-15)
コンサート	LAWSON presents Sphere BEST live 2015 ミッション イン トロコ!!! -plan A- (3/20) -plan B- (3/21)
コンサート	ウタカツ! スーパーライブ2015 (3/22)
コンサート	2015 XIA 3rd ASIA TOUR CONCERT IN JAPAN 'FLOWER' (3/24-26)
バスケ	東日本大震災復興支援 第46回全国ミニバスケットボール大会 (3/28-30)
就職 セミナー	シンデレラフェスVol. 2 (4/2)
フィギュア スケート	世界フィギュアスケート国別対抗戦2015 (4/16-19)
体操	第69回全日本体操競技選手権大会 (4/24-26)
ファッション ショー	Girls Award 2015 SPRING/SUMMER (4/29)
チャ リーディング	第9回 アジア インターナショナルオープン チャンピオンシップ (5/9,10)
体操	第54回NHK杯体操 (5/16-17)
コンサート	2PM ARENA TOUR 2015"2PM OF 2PM" (5/23-25)

代々木第二体育館

バスケ	NBDL2014-2015 (3/1-2)
バスケ	NBDL2014-2015 (3/7-8)
バスケ	NBL2014-2015 (3/14-15)
バスケ	第16回Wリーグプレーオフセミファイナル (3/21-22, 24)
バスケ	NBL2014-2015 (3/25)
バスケ	第46回全国ミニバスケットボール大会 (3/28-30)
コンサート	パドリスタコンサート (3/31)
バスケ	第16回Wリーグプレーオフファイナル (4/5,7,9)
格闘技	K-1 WORLD GP 2015 IN JAPAN～ -55kg初代王座決定トーナメント (4/19)
バスケ	NBL2014-2015 (4/25-26)
バスケ	NBL2014-2015 (5/3)

秩父宮ラグビー場

ラグビー	サントリーカップ 第11回全日本小学生 ラグビー選手権大会 決勝大会 (3/7～8)
ラグビー	HSBCセブンズワールドシリーズ 東京セブンズ2015 (4/4～5)

味の素フィールド西が丘

サッカー	JFAキッズ (U-6) サッカーフェスティバル (3/1)
サッカー	第11回関東大学女子サッカー東西対抗戦 (3/7)
サッカー	第17回日本フットボールリーグ1stステージ第1節 横河武蔵野FC vs 栃木ウーヴァFC (3/8)
サッカー	第25回イギョラ杯国際親善ユースサッカー大会 (3/21)
サッカー	J2リーグ第5節 東京ヴェルディ vs ギラヴァンツ北九州 (4/1)

スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。

<http://www.jpnsport.go.jp>

2/14(土)より
開催中!

「SAYONARA国立競技場FOR THE FUTURE "MEMORIAL GOODS DESIGN AWARD 2015"」



国立競技場のファンの間でも特に想い入れの深い『スタンドの椅子』。その国立競技場の遺産である椅子を購入していただき、新たなデザインで甦らせ、未来へとつなぐスポーツとアートをテーマにしたデザインアワードとなっており、椅子としての実用的なデザインから未来をイメージさせるアート作品まで、幅広い作品を募集します。

なお、グランプリ作品には、有名家具メーカーによる製品化や新国立競技場にて展示されるなどの特典を予定しています。詳細はSAYONARA国立競技場プロジェクト特設ページ (<http://www.jpnsport.go.jp/sayonara/>) をご覧ください。

国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171) 秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)
味の素フィールド西が丘 (国立スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

【編集後記】

これまで様々な大会の舞台となってきた国立競技場。ここでは、多くの記録が、数々の名勝負・ドラマが生まれました。そんな国立競技場も、昨年、半世紀にわたる歴史に幕を下ろし、今、本格的なとりこわし工事が行われています。年末年始の大会をはじめ、毎年恒例で国立競技場において行われてきた大会を、当時を思い浮かべながらテレビを通して観戦すると、感慨もひとしおです。新しい国立競技場は、2019年のラグビーワールドカップ、2020年のオリンピック・パラリンピック、そしてその先の未来に向け、もう一度、私達の手で「スポーツの聖地」として愛されるスタジアムにしなければなりません。引き続き、ご支援、ご協力くださいますよう、よろしくお願いたします。(O)

国立競技場 第605号

2015年3月1日発行

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒107-0061 東京都港区北青山 2-8-35

tel 03-5410-9121

●編集協力 株式会社ジャニス



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。